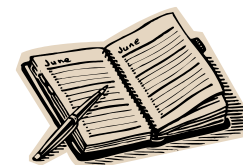


へき地での在宅医療の提供について (遠隔診療など)

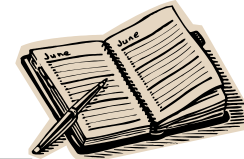


山口県立総合医療センター
へき地医療支援センター長
原田 昌範

講演発表内容に関連し、
発表者に開示すべきCOIはありません

本報告は、厚生労働行政推進調査事業「へき地医療の推進に向けたオンライン診療体制の構築についての研究」(H30-医療-指定-O18)、「海外の制度等の状況を踏まえた離島・へき地等におけるオンライン診療体制の構築についての研究」(課題番号:21IA2007)による研究成果が含まれています。

自己紹介（略歴・所属等）



卒後	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
勤務先	県総		岩国市立 錦中央病院			県総 外科	周南市立 鹿野診療所		萩市 大島診療所		自治 医大 地域	山口県立総合医療センター へき地医療支援センター														コロナ室		保健所
	義務年限									山口県ドクタープール					FA													

山口県周南市出身
2000年 自治医科大学卒

総合診療専門医／家庭医療専門医
社会医学系専門医

- 山口県立総合医療センター へき地医療支援センター センター長
へき地医療支援：巡回診療・代診・医師派遣（休日診療所、へき地診療所）
長州総合診療プログラム 責任者・DMAT隊員
- 山口県防府保健所 所長
- 山口県庁医療政策課 山口県へき地医療支援機構専任担当官
- 公益社団法人地域医療振興協会 理事・山口県支部長
- 自治医科大学：臨床講師・学外卒後指導委員
- 非常勤講師：山口大学医学部・神戸大学医学部・周南公立大学・萩看護学校

ある「へき地」にて



87歳男性・妻と二人暮らし

患者から許可をいただいています

心房細動

介護保険（デ イサービス・ショートステイ）

脳梗塞（左片麻痺）

在宅リハビリ

高血圧

白内障

便秘

带状疱疹

心不全

老々
介護

せん妄

褥瘡



誤嚥性肺炎

胸水穿刺

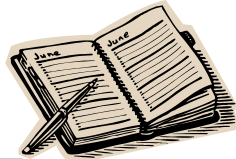
在宅酸素

訪問看護

胃瘻造設

患者から許可をいただいています

山口県保健医療計画（へき地医療）



■…へき地（過疎地域持続的発展特別措置法・離島振興法・山村振興法の指定地域）

■…へき地医療拠点病院（7）

●…へき地診療所（常勤〔週4日以上〕）（12）

○…へき地診療所（その他）（26）

■…へき地病院（11）

△…巡回診療（6）

○…無医地区（8）

○…準無医地区（10）

過疎3法

過疎地域持続的発展特別措置法

離島振興法

山村振興法

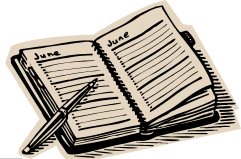


へき地

県土の約6割
人口 約23万人（約17%）

令和5年7月現在

「へき地」ってどんなところ？



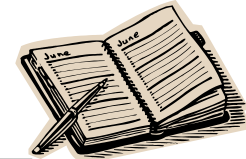
○交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち医療の確保が困難であって、「無医地区」及び「無医地区に準じる地区」の要件に該当するもの

- ・**無医地区**…医療機関のない地域で、当該地域の中心的な場所を起点として、概ね半径4 kmの区域内に人口50人以上が居住している地域であって、かつ、容易に医療機関を利用することができない地区
- ・**無医地区に準じる地区**…無医地区には該当しないが、無医地区に準じた医療の確保が必要な地区と各都道府県知事が判断し、厚生労働大臣に協議し適当と認めた地区

山口県では、過疎3法の指定地域を「山口県へき地保健医療計画」の対象地域としている。

- 過疎地域持続的発展特別措置法（総務省）
- 離島振興法（国土交通省）
- 山村振興法（農林水産省）

へき地保健医療対策等実施要綱より（厚労省）

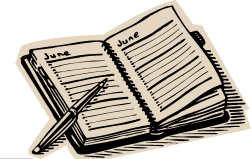


○へき地の保健・医療の確保を目的に「へき地医療支援機構」、「へき地医療拠点病院」、「へき地診療所」などの設置基準等を定めたもの。山口県は定期的に「へき地医療専門調査会」を開催し、へき地医療について関係者で協議。

【へき地診療所の設置基準】

- ・ **ア** おおむね半径4kmの区域内に他に医療機関がなく、その区域内の人口が原則として人口1,000人以上であり、かつ、診療所の設置予定地から最寄医療機関まで通常の交通機関を利用して(通常の交通機関を利用できない場合は徒歩で)30分以上要するものであること。
- ・ **イ** 次に掲げる地域で、かつ、医療機関のない離島(以下「無医島」という。)のうち、人口が原則として300人以上、1,000人未満の離島に設置するものであること。

山口県のへき地の人口推移

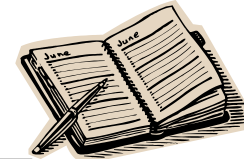


(単位：人、%)

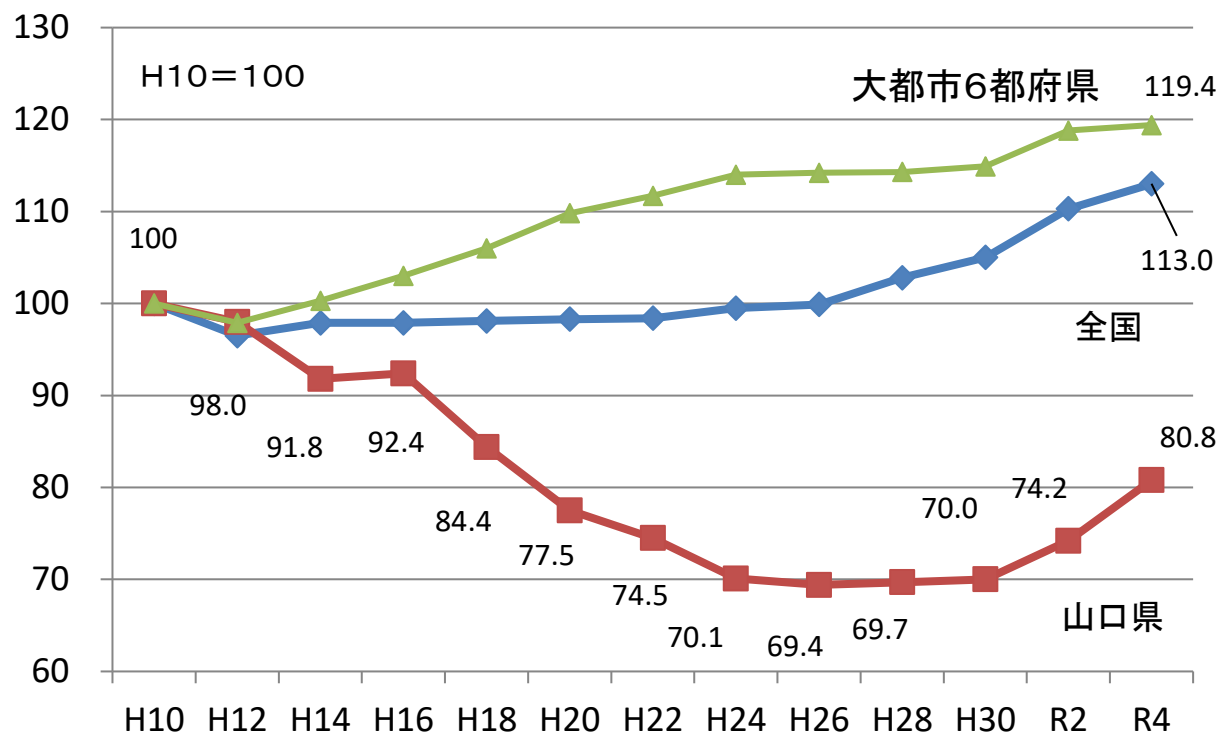
	H22(a)	H27(b)	R2(c)	(d)=(c)- (a)	増減率 (d/a)
県全体	1,451,338	1,404,729	1,342,059	△ 109,279	△ 7.5%
へき地	214,468	194,483	188,431	△ 26,037	△ 12.1%
うち離島	4,285	3,540	2,687	△ 1,598	△ 37.3%

へき地（特に離島）の人口減少は著しい

山口県の35歳未満の若い医師の推移



35歳未満医師数の推移



へき地・中山間地域の
診療所で病気等を理由
にリタイア
(H25～R3年度)

萩市

松井医院（田万川）
松原医院（須佐）

周南市

大津島診療所
鹿野診療所
長沼医院（和田）

上関町

祝島診療所
上関町診療所

光市

牛島診療所

山口市

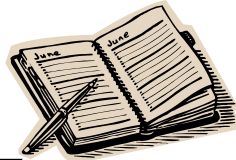
井上医院、亀田医院

医師の平均年齢 **53.3歳：全国2位**

○若手医師の減少

○へき地・中山間地域を支えている医師の高齢化

山口県には有人離島が21か所（本州最多）



2島に
常勤医師

見島（689人）
大島（585人）

（R2国勢調査）

常勤医がリタイア

- ・大津島診療所
- ・祝島診療所
- ・牛島診療所

平郡島：人口300人を切り
週2日の医師派遣に（R3～）

赤字・下線は、「定期巡回診療」又は「非常勤医師」でカバー

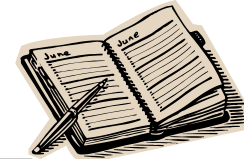
「柱島・端島・黒島（岩国市）」「情島・浮島・前島・笠佐島（周防大島町）」

「祝島・八島（上関町）」「佐合島（平生町）」「馬島（田布施町）」

「生島（光市）」「大津島（周南市）」「野島（防府市）」「相島・櫃島（萩市）」

「蓋井島・六連島（下関市）」

山口県における診療科の偏在



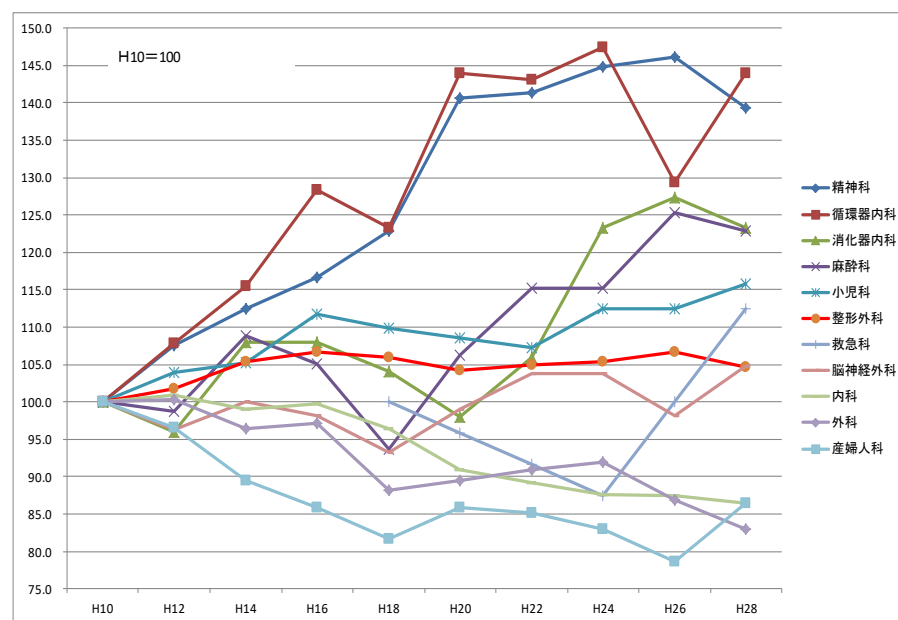
小児科、産婦人科、救急科、麻酔科、外科
放射線治療科、病理診断科、呼吸器・感染症内科
膠原病科、脳神経外科
腎臓内科、総合診療科

(赤字：修学資金制度による特定診療科)

進む専門分化

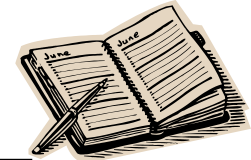
高齢になるほど
複数の疾患を持つ
multimorbidity

山口県の各診療科の医師の伸び率(医療施設従事)



※ 内科は、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科を含む。
外科は、乳腺外科、消化器外科を含む。
産婦人科は、産科を含む。

すべての専門診療科をへき地に揃えるのは不可能



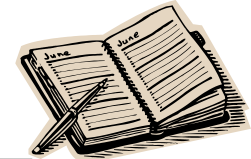
急速な人口減少、過疎化、高齢化

- 医療資源（医療従事者）の偏在
- 若手スタッフの減少
- 医療スタッフの高齢化・引退
- 働き方改革
- 患者減に伴うダウンサイジング

へき地は将来の日本 → 課題先進地域

へき地医療を持続的に衛るにはしくみが重要

山口県のへき地の在宅医療の現状と課題

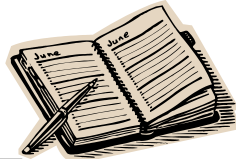


医療資源が限られている

- 無医地区や巡回診療などの地域は、医師は非常勤体制
- 人口減少や医師不足で、常勤体制の維持が困難
- 在宅医療に対応できるリソースまで遠く、限られている
歯科、調剤薬局、訪問看護ステーション、栄養指導
ケアマネ、リハビリ、ヘルパー、デイサービスなど
- 対応するエリアが広い（16kmを超える）
患者数が少なく、距離も遠いため、採算が合わない
- 離島や豪雪地域は、荒天時の影響が大きい

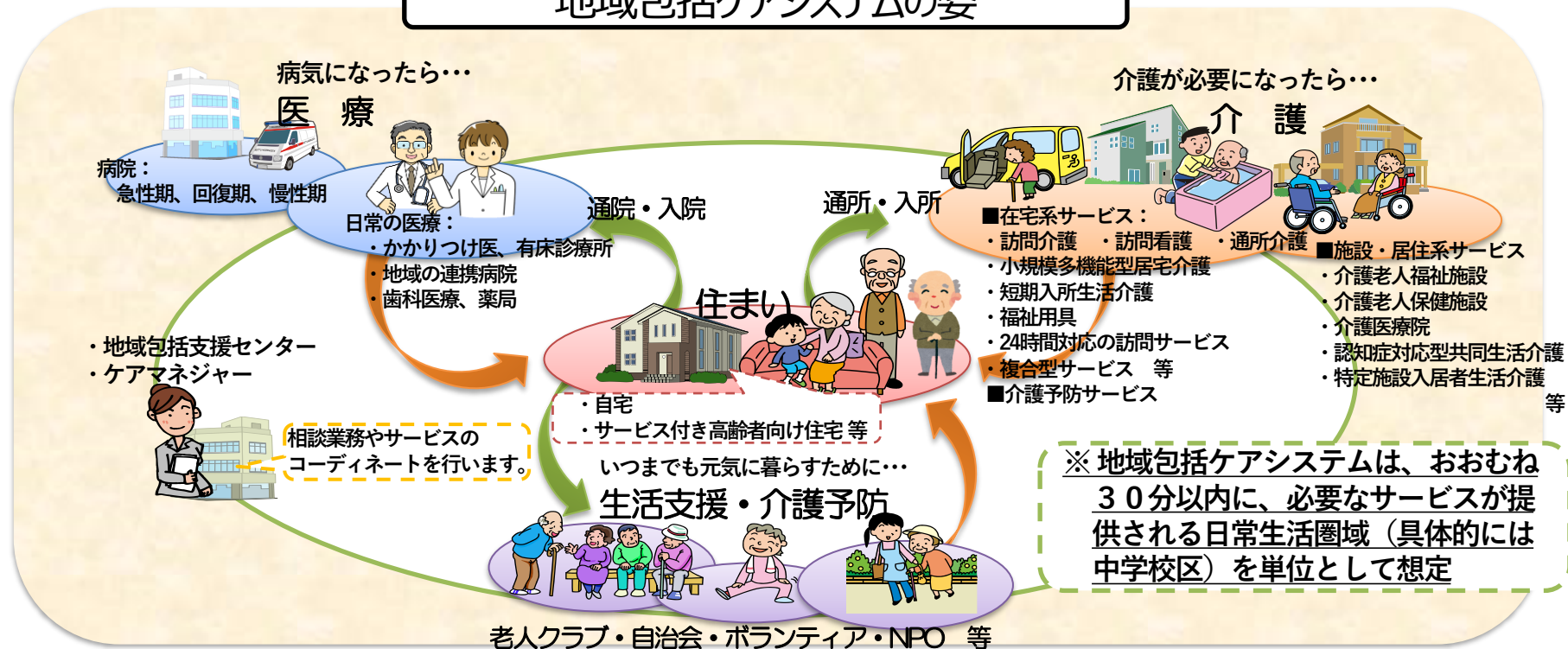
住み慣れた地域を早く離れてしまう方も少なくない

ゴールは離島へき地でも「地域包括ケアシステム」

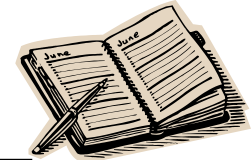


- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても**住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**を実現していきます。（以下省略）

地域包括ケアシステムの姿



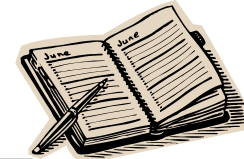
「第8次山口県保健医療計画」によるへき地対策



5 疾病 6 事業および在宅医療（R6～）

- 5 疾病：
 - がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患
- 6 事業：
 - 救急医療
 - 災害時における医療
 - へき地の医療
 - 周産期医療
 - 小児救急医療を含む小児医療
 - 新興感染症
- 在宅医療

県立総合医療センター へき地医療支援センター



SCRUM (Support Center for Rural Medicine)

○診療支援（へき地医療拠点病院として）

巡回診療：無医地区対策

代診：へき地診療所の支援対策

休日夜間診療支援：萩市、長門市（H25～）

へき地医療支援ベッド機能（H26～）

医師派遣：周南市（H28～）・山口市（R3～）・上関町（R4～）

コロナ診療支援：コロナ室、保健所、宿泊療養施設、クラスター施設、、、

○仕組みづくり（県医療政策課と連携して）

県・市町と「へき地医療」を守る仕組みづくり

「山口県へき地医療専門調査会」にて施策の提言

遠隔医療の実証事業：厚労省、国交省、県（5G）、市町村（スマート事業）

○次世代の育成とメンター（へき地勤務医師のサポート）

医学生：やまぐち地域医療セミナー、クリクラ（山口大学医学生）

初期研修医：地域医療、短期総合、総合内科、外来研修、家庭医入門コース

後期研修医：長州総合診療プログラム（新専門制度に対応）

アドバンスコース・フェローコース・キャリアチェンジコース

自治医大卒義務内医師のサポート

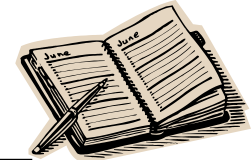


離島・へき地で在宅医療をどう継続するか



- かかりつけ患者やその家族と定期的に**ACP（人生会議）**
 - 医療資源が限られた環境下で「もしもに備える」には
- **普段から**関係者とのコミュニケーションをとる
 - 定期ミーティング（オンライン併用）、情報共有ツールの活用
- 特に**行政（地域医療課、保健師等）**を巻き込む
 - 自治体が訪問看護ステーションを設置した事例もあり
- 地域住民に継続的に**啓発**（ACPの普及など）
 - 文化を醸成
- 学生（医学生・看護学生等）、研修医、専攻医等に在宅医療の**教育**
 - 医学教育に在宅医療を組み込む
- **遠隔医療**（オンライン診療等）を組み合わせる
 - D to P with N など（新しい診療報酬加算）

巡回診療（S57～）



1) 萩市相島地区

人口：約100人

平均外来：5人前後

定期訪問：1～2名

2) 山口市徳地柚木地区

対象人口：約150人

平均外来：5人前後

定期訪問：3名

【巡回診療先で行なっている医療行為】

- ・診察、訪問診療
- ・投薬（定期・臨時）
- ・注射、点滴
- ・採血、尿検査
- ・心電図
- ・超音波
- ・関節内注射
- ・検鏡
- ・縫合等



○ クラウド型電子カルテシステムの導入（平成25年～）

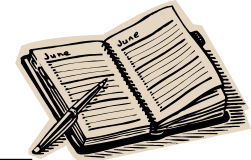
電子カルテ化した当院と情報の共有が可能

○ 訪問看護ステーションとの連携（令和元年～）

○ 遠隔医療を組み合わせる（令和2年～）

非常勤体制（週1日の巡回診療）で在宅医療をどう継続するか

へき地において遠隔医療に期待すること



「医療資源の限られた地域においても、患者・医療従事者の安心・安全につながる医療・地域包括ケアシステムの持続的な確保」

① 医師が近くにいなくても医療が届く：

Doctor to Patient , Doctor to Patient with Nurse

② 遠隔地でも専門医や指導医に相談できる：

Doctor to Doctor

③ 多職種が支援できる（薬剤師、栄養士、療法士、、、）

○ 山口県の遠隔医療（オンライン診療含む）の導入に向けての取り組み

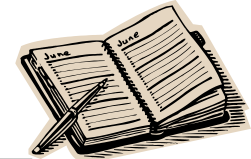
1) 自治医大の派遣先にクラウド型電子カルテの導入

2) 山口県へき地遠隔医療推進協議会の設置

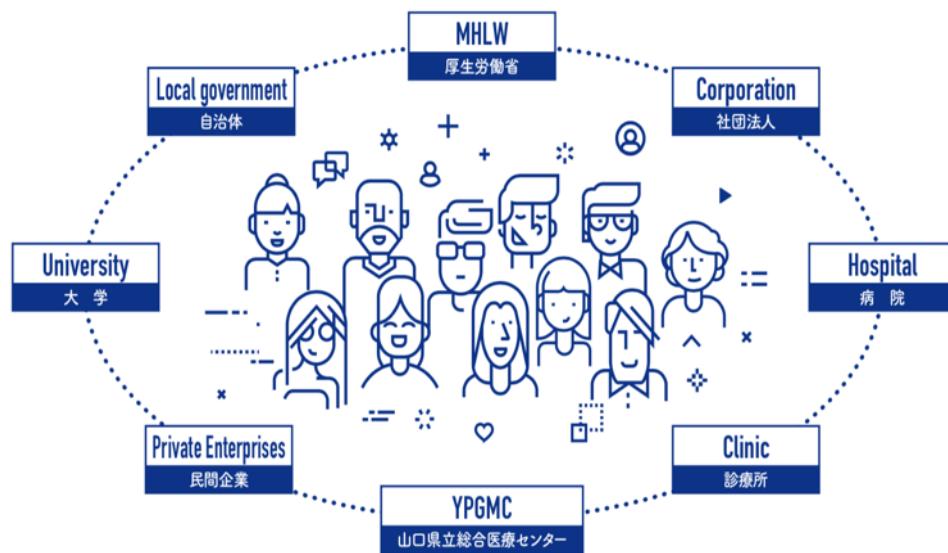
「課題の整理とモデルの検討・顔の見える関係づくり」



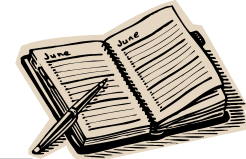
山口県へき地遠隔医療推進協議会（2018～）



目的：へき地における遠隔医療（オンライン診療等）について現状や課題を関係者で整理・共有し、へき地医療の確保の一助に繋げる



厚生労働行政推進調査事業（原田班）



2019年11月～ 前野教授（つくば大学）の分担研究として活動開始

「へき地医療の推進に向けたオンライン診療体制の構築についての研究」

（H30ー医療ー指定ー018）

- 国内の離島へき地におけるオンライン診療の現状と課題
- へき地におけるオンライン診療モデルの検証@山口県
- 海外視察（米国，豪州，英国，デンマーク）
- オンライン服薬指導と電子処方箋
- ネットワーク・セキュリティ
- 小児、産婦人科領域における遠隔医療

令和元年度（2019年度）の研究報告書

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2019/193011/201922037A_upload/201922037A0004.pdf

令和2年度（2020年度）の研究報告書

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202022011A-buntan1.pdf

2021年4月～ 主任研究として（3年間）

「海外の制度等の状況を踏まえた離島・へき地等におけるオンライン診療体制の構築についての研究」（課題番号：21IA2007）

令和3年度（2021年度）の研究報告書

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/21IA2007-soukatsu_0.pdf

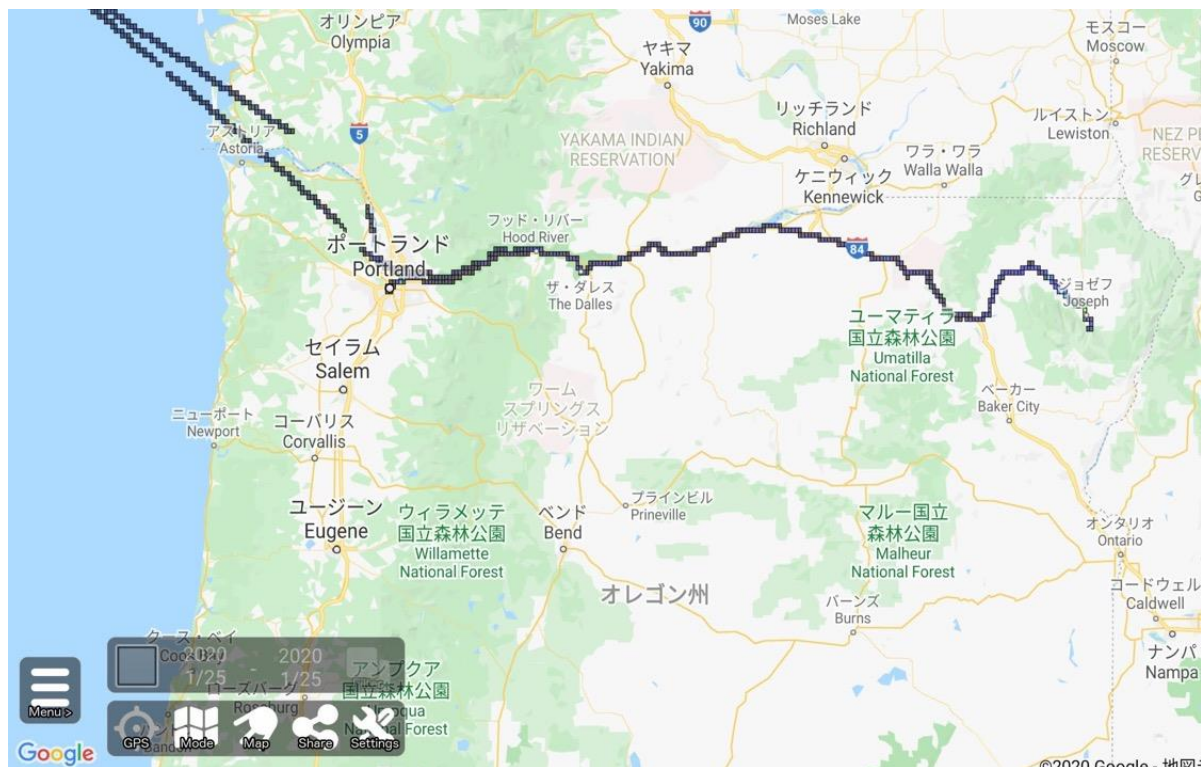
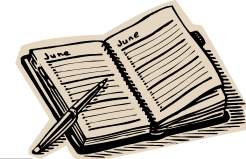
令和4年度（2022年度）の研究報告書

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/21IA2007-soukatsu.pdf

令和5年度（2023年度）の研究報告書

<https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/170722>

米国へき地の好事例：Virtual Care & Visit



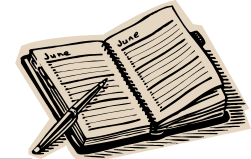
オレゴン州ワローワ郡
(エンタープライズ)
人口 7,100人
面積 8145km²≒静岡県



脳卒中の遠隔医療
「D to D」

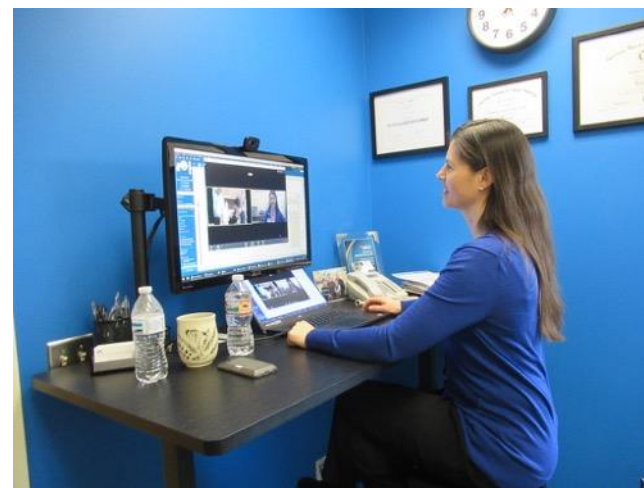
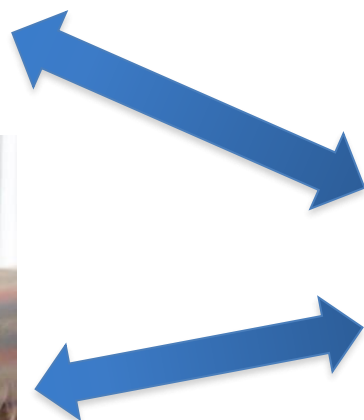


米国の好事例：へき地で「D to P with N」



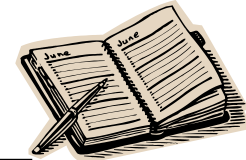
- エンタープライズで23症例のオンライン診療を見学
- アクセス障害(地理的, 物理的, 心理的)の解消が目的
- 多くの対象者が高齢者(難聴, 低いITリテラシー)
- 看護師(14例), 薬剤師(6例)の介助による質の高い運用
- メディカルアシスタント(MA)の補助
- 良好な医師患者関係を構築した上で実施
- チーム医療を重要視(チャットによる密な連絡)

介護施設(看護師が訪問)



へき地診療所(かかりつけ医)

患者宅(薬剤師が訪問)



Tele-consultation (Wallowa Memorial Hospital) OCHIN

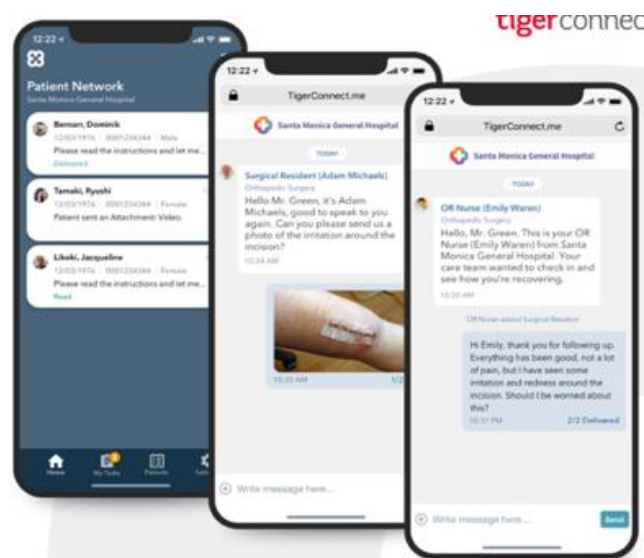
EPIC Care / HAIKU・CANTO / My Chart

Zoom Cloud Meeting

Tiger Connect

電子処方箋

InTouch



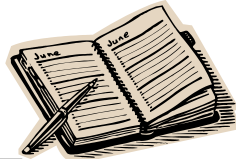
Patient Summary	
Atwood, Glen (54y M)	
Permanent Address	
1250 W Washington Ave MADISON WI 53710	
608-270-4567 (H)	608-556-8712 (W)
608-743-7466 (M)	
Active Problems	
Hospital	
Community acquired pneumonia	
Acute Respiratory Failure - hypoxic	
Stress hyperglycemia	
Disorder of Nutrition - NPO	
DIC (disseminated intravascular coagulation)	
Non-Hospital	
Essential Hypertension	
Hypothyroidism	
Hypercholesterolemia	
Osteoarthritis of Knee	
Last Reviewed:	
Drew Walker, M.D. on 3/25/2010 at 1:40 PM	
Current Medications	
Hospital	
0.9% NaCl infusion, Continuous	

Teladoc
HEALTH

WEMEX

zoom

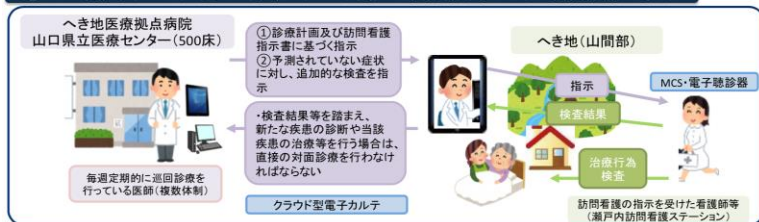
山口県で実証開始：「D to P with N」



○ケースA:へき地巡回診療(同一二次医療圏):D to P with N

診療日以外の予測内の症状(A-1)・診療日以外の予測外の症状(A-2)

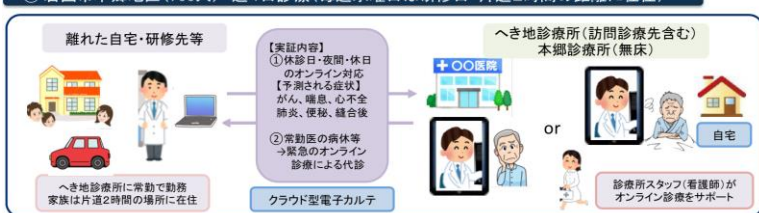
○山口市柚木(160人) 週1日(木曜日)に公民館で巡回診療(周辺地域の訪問診療に対応)



○ケースB:常勤体制のへき地診療所:D to P with N

常勤医不在時(B-1)・緊急のオンライン代診(B-2)・オンラインによる在宅診療(B-3)

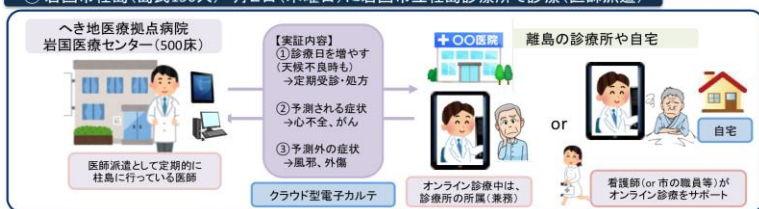
○岩国市本郷地区(700人) 週4日診療(毎週水曜日は研修日・片道2時間の距離に在住)



○ケースC:離島へき地診療所(同一医療圏・異なる医療機関への医師派遣):D to P with N

天候不良時(C-1)・診療日以外の予測内の症状(C-2)・診療日以外の予測外の症状(C-3)

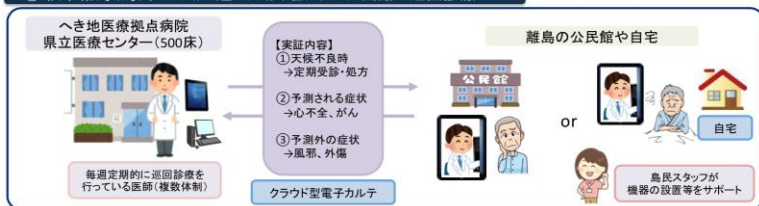
○岩国市柱島(島民150人) 月2日(木曜日)に岩国市立柱島診療所で診療(医師派遣)



○ケースD:離島巡回診療(異なる二次医療圏):D to P with N

天候不良時(D-1)・診療日以外の予測内の症状(D-2)・診療日以外の予測外の症状(D-3)

○萩市相島(島民140人) 週1日(火曜日)に公民館で巡回診療



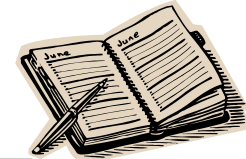
岩国市で補正予算



萩市相島巡回診療

山口県立総合医療センターへき地医療支援センター 原田昌範

実証のインタビュー結果（一部）



日本のへき地でも
「D to P with N」



90歳代，男性

- 「先生と話して安心した。」
- 「こんな便利な物があるなら、ずっと家におれる。」
- リアルタイムビデオ通話により、表情、声のトーン、話す姿などから全身状態を判断するための有益な情報が得られた

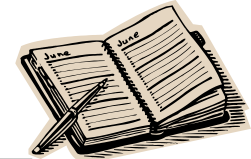
○メリット

欠航や大雪等、天候不良時にも診療可能
医師が体調不良時にもオンライン代診
医療機関までの長距離移動がない
経済的負担の軽減（タクシー・船代）
長時間の移動による状態悪化の回避
感染対策（コロナ対応）
いつもの主治医の顔が見えて安心
患部や動きが直接見える

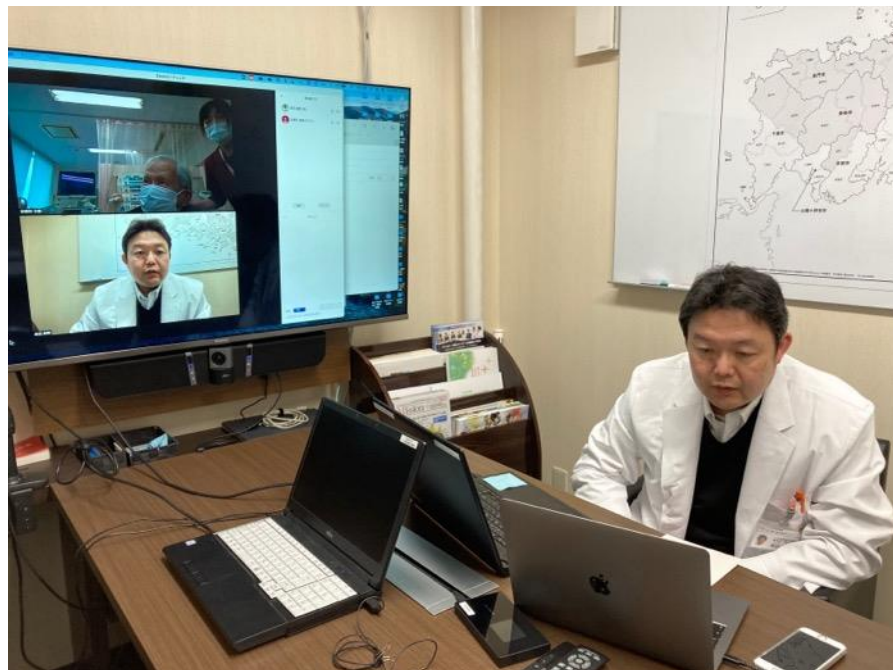
○課題

- ・高齢者が多い
- ・ITデバイスをうまく使用できない者がいる
- ・難聴の場合、医師の声が届きにくい
- ・システムやデバイス等の導入・維持の費用対効果が低い
- ・ネットワーク環境が悪い（回線速度、圏外等）
- ・自治体（開設者）の予算が少ない
- ・関係者が遠く離れているため顔の見える関係が構築しにくい
- ・オンライン診療後、薬を届けにくい

オンライン診療による代診（実証）



岩国市本郷診療所（へき地診療所）



【想定】

- 医師が朝から発熱で出勤停止
- 急な代診対応は困難であり、緊急オンライン診療で代診を実施
- 形式は、D to P with N
- 高齢者の定期受診・定期訪問
- ※ 安全を考慮し、所長が院内に待機

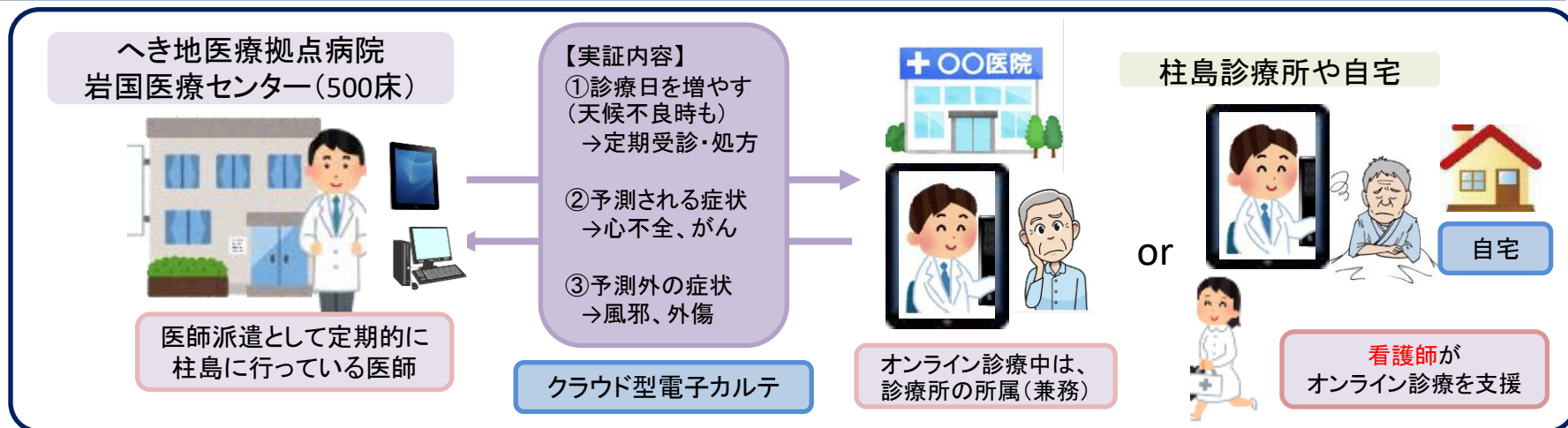
【実証内容】

- 診察（with 看護師 or 事務スタッフ）
- 電子聴診器の使用
- 定期薬の処方（院内処方）
- クラウド型電子カルテ or Faxの併用
- 代診医療機関：2次医療圏内 or 圏外のへき地医療拠点病院（当院）

離島へき地におけるオンライン診療には「D to P with N」が有効

【研究班の実証ケース】 岩国市立柱島診療所（常勤医なし）

- ・同医療圏のへき地医療拠点病院から**月2回、医師が派遣**される。島民は診療日を増やしてほしいと要望。
- ・令和2年から実証開始。**本土から看護師のみ離島にわたり**、オンライン診療を支援し、診療日を増やす。



・オンライン診療「D to P with N」は、患者の同意の下、看護師が患者のそばにいる状態での診療である。医師は診療の補助行為を看護師等に指示することで、予測された範囲内における治療行為や予測されていない新たな症状等に対する検査が看護師等を介して可能となる(オンライン診療の適切な実施に関する指針)。

・離島等の診療所においては、荒天等により医師及び薬剤師がやむをえず不在となる場合に、一定の条件のもと医師又は薬剤師が確認しながら看護師が一定の薬剤を患者に渡すことができる(令和4年3月23日厚労省事務連絡)。

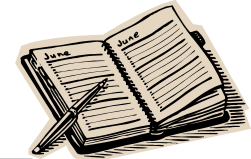
【オンライン診療において「with N(看護師)」のメリット】

- ① 医師が現地にいなくても、通常のオンライン診療に比べて、質の高い診療(検査、処置)を届けられる。
- ② デバイス操作が困難、難聴、認知症などの高齢者にも対応できる。
- ③ 急患対応時の看護師の精神的な不安を軽減。特に緊急オンライン代診には看護師は必須。

課題

- ・デバイスの操作など、オンライン診療支援に必要なスキルの習得。普段からの医師とのコミュニケーション。
- ・看護師によるオンライン診療支援には多大な人的コストやスキルが必要。

看護師と連携（D to P with N）のメリット



- 看護師が近くにいることで、**患者も医師も安心**できる
（特に初診やグループ診療で普段と異なる医師が診療する場合）
- 診察前の問診やバイタル測定により診療に役立つ情報が得やすい
- かかりつけの患者の普段の様子を知っているため、**顔色等の変化に気づきやすい**
- **場のコントロール**ができる（時間の配分やトリアージ等）
- **難聴や認知症**の患者でも対応できる
- 痛いところなどに**直接触れる**など、身体所見を取ることができる
- 更に詳しい観察や聞き取りを看護師を介して実施でき、医師から患者への説明についても補強ができる
- デバイスなどを操作でき、診療に必要な医療情報の精度が上がる

看護師等遠隔診療補助加算（令和6年度診療報酬改定）

へき地診療所等が実施するD to P with Nの推進

へき地診療所等が実施するD to P with Nの推進

- へき地医療において、患者が看護師等という場合のオンライン診療（D to P with N）が有効であることを踏まえ、へき地診療所及びへき地医療拠点病院において、適切な研修を修了した医師が、D to P with Nを実施できる体制を確保している場合の評価を、情報通信機器を用いた場合の再診料及び外来診療料に新設する。

(新) 看護師等遠隔診療補助加算

50点

[算定要件]

別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、看護師等という患者に対して情報通信機器を用いた診療を行った場合に、所定点数に加算する。

[施設基準]

次のいずれにも該当すること。

- (1) 「へき地保健医療対策事業について」（平成13年5月16日医政発第529号）に規定するへき地医療拠点病院又はへき地診療所の指定を受けていること。
- (2) 当該保険医療機関に、へき地における患者が看護師等という場合の情報通信機器を用いた診療に係る研修を修了した医師を配置していること。
- (3) 情報通信機器を用いた診療の届出を行っていること。



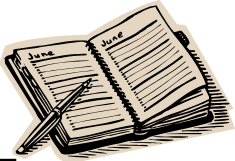
へき地診療所又はへき地医療拠点病院の医師



情報通信機器を用いた診療



患者が看護師等という場合



オンライン診療を行う医師向けの研修

科目名	担当講師	講義時間	テキストページ数
オンライン診療の基本的理解とオンライン診療に関する諸制度	日本医師会常任理事 長島公之	34:55	56
オンライン診療の提供に当たって遵守すべき事項	日本医師会常任理事 長島公之	38:49	82
オンライン診療の提供体制	医療情報システム開発センター 理事長 山本隆一	15:33	17
オンライン診療とセキュリティ	医療情報システム開発センター 理事長 山本隆一	34:34	31
実臨床におけるオンライン診療の事例	医療法人社団嗣業の会外房こどもクリニック理事長 黒木春郎	26:32	38

緊急避妊薬の処方に関する研修

科目名	担当講師	講義時間	テキストページ数
経口避妊薬（OC）について理解すべき事項-各種避妊法とOC全般	日本産婦人科医会常務理事 安達知子	45:27	68
緊急避妊（Emergency Contraception:EC）	日本産婦人科医会常務理事 安達知子	39:18	58

へき地における患者が看護師等という場合のオンライン診療に関する研修

科目名	担当講師	講義時間	テキストページ数
へき地における患者が看護師という場合のオンライン診療	山口県立総合医療センター へき地医療支援センター、公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所 原田昌範	37:10	40

厚生労働省指定

へき地における患者が看護師等という場合のオンライン診療に関する研修

修了証

原田 昌範 殿

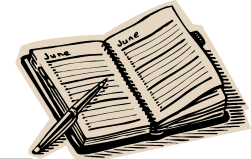
修了証登録番号： 202105522r

あなたは、厚生労働省が指定する「へき地における患者が看護師等という場合のオンライン診療に関する研修」を受講し、知識の習得に努められました。
ここにすべての課程を修了したことを称します。

2024年05月12日



厚生労働省医政局医事課



「離島巡回診療の関係者で定期オンラインミーティング」

○参加者：

- ・医師（へき地医療拠点病院：山口県立総合医療センター）
- ・巡回診療に同行する看護師（萩市休日診療所）
- ・訪問看護師（民間訪問看護ステーション）
- ・ケアマネジャー（相島在住）

○頻 度：月1回（約30分～1時間）

○内 容：

主に離島巡回診療にて訪問診療を実施している患者に関することについて、ビデオ会議システムにて関係者で情報共有（ケア会議）

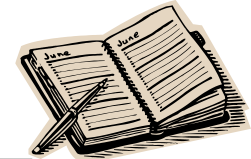
○情報共有方法：

医療従事者向け情報共有ツールを活用

○効果：

荒天時に顔の見える関係者でオンライン診療が円滑に実施できる

山口県の取り組みの実例②



「へき地診療所看護師オンライン茶話会」



○参加者：

- ・県内のへき地診療所（複数箇所）の看護師
- ・へき地診療所、へき地医療拠点病院の医師
- ・時々、山口大学看護学部、県庁看護指導班、県外のへき地診療所
- ・時々、医学生、看護学生、、、

○頻 度：毎週金12:15～12:45（年1回リアル茶話会も開催）

※コロナ禍に始まり2年以上継続

○目 的：へき地診療所看護師が孤立せず、経験と知識を共有し、 新たなキャリアパスを形成を目指す

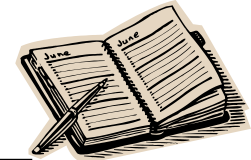
○内 容：最近の話題（処置で悩んだケースや感染流行状況）の共有 （雑談で終わることもあるくらいに、参加のハードルを低く設定）

○方 法：ビデオ会議システムを利用。医師がファシリテーション

○効 果：

へき地診療所の看護師同士で最近の話題が共有され、孤立しにくい
看護師がデバイスの扱いになれ、オンライン診療のハードルが下がる
普段から顔の見える関係があり、代診時のコミュニケーションも良好

第7次山口県保健医療計画（抜粋）



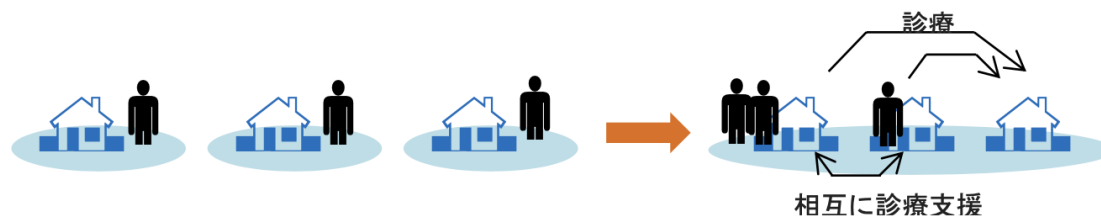
「目指すべき方向」の具体的なイメージ

□地域における医療機関相互の連携体制のイメージ

住民に必要な医療提供体制を維持していくためには、効率的で持続可能な医療提供体制が必要であり、次のような形態が考えられます。

「ブロック制」のイメージ

複数の診療所をグループ化し、常勤医師不在の診療所での診療や相互の代診等を行う。



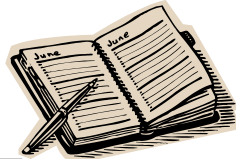
「集約化」のイメージ

診療所に配置している常勤医師を地域の中核病院に集約し、中核病院から出張診療所化した診療所に交替で医師を派遣する。



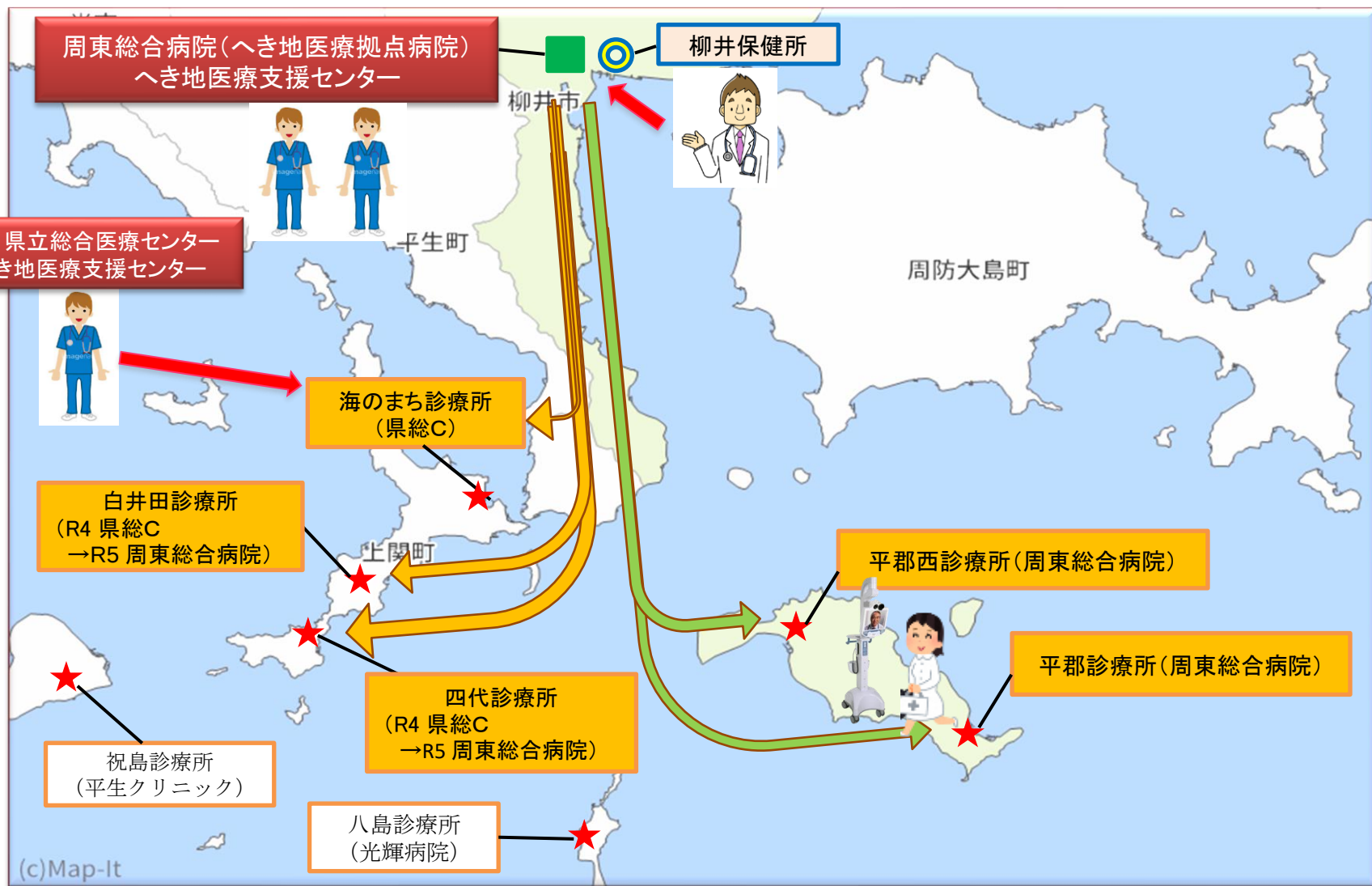
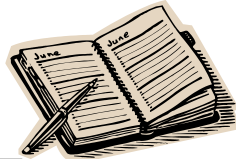
面（チーム）で守る・遠隔医療の活用

周東総合病院に県内2番目の「へき地医療支援センター」

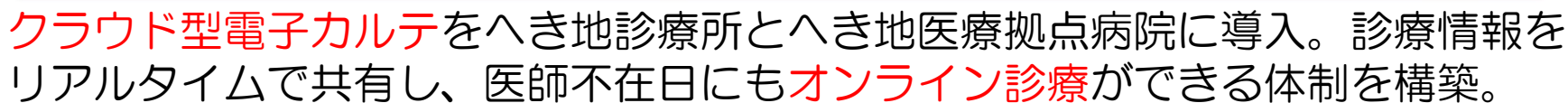


自治医大の派遣は、へき地医療拠点病院である周東総合病院に集約。
へき地医療支援センターを設置し、総合診療の育成と離島へき地の支援を開始。

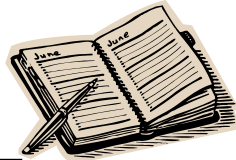
周東総合病院に県内2番目の「へき地医療支援センター」



自治医大の派遣は、へき地医療拠点病院である周東総合病院に集約。
へき地医療支援センターを設置し、総合診療の育成と離島へき地の支援を開始。



コロナ禍、宿泊療養先から離島の患者にオンライン診療



山口県柳井市平郡島：人口250人

2021年から常勤体制（週4日）から非常勤体制（週2日）に変更

かかりつけ医（非常勤）がCOVID-19に感染し、本土から離島診療に行けず、10日間の療養期間中に宿泊療養施設から、かかりつけの患者に定期外来日の計3日間、離島診療所の看護師と連携し、オンライン診療で診察。汎用システムとクラウド型電子カルテを使用。

実証事業として数回オンライン診療の実施経験があったため、当日はスムーズに実施できた。

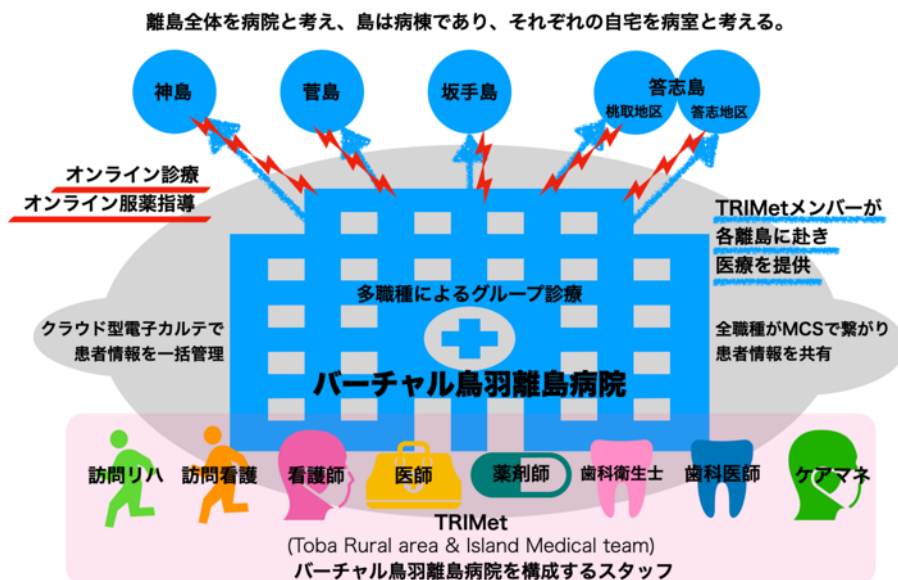
看護師と連携することで、認知症、難聴の方にも特に問題なく対応でき、外来診療だけでなく、訪問診療も予定通り対応できた。

実証で平時からオンライン診療を実施していたので円滑に実施できた



三重県鳥羽市のオンライン診療の実例

- ICTを活用して複数の離島が連携した、効率的な診療体制を構築
鳥羽市内4離島と本土側診療所の医療資源の効率的活用とコスト負担改善のため、グループ診療と多職種連携、オンライン診療を組み合わせた『バーチャル鳥羽離島病院構想』を実現。
クラウド型電子カルテとオンライン診療、コミュニケーションツールを活用し、医療介護チームTRIMet(Toba Rural area & Island Medical team)が連携をとりながら、少数の医師でカバーする体制をとっており、離島の医療者不足と人口減少に柔軟に対応できる医療提供システムを構築。
- 島に医師が不在時でも対応可能な安心できる「離島」での生活を確保
オンライン診療により、島に医師が不在の時にもつながることができ、島民の不安軽減と医療の質の維持を可能とすることで、持続可能な安心できる「離島」での暮らしを確保。



住み慣れた離島で安心して生活しつづけられる包括的支援を多職種で提供

|||||

TRI Met

Toba Rural area & Island Medical team

私たちは鳥羽の離島へき地に住むみなさんが
住み慣れた場所で安心して生活できる医療を提供し、
みなさんの願いを叶えるためのチームです。

遠隔死亡診断の実例報告

網地島（宮城県石巻市）の背景

- 人口247人・高齢化率75.3%（R2年国勢調査等）
- 離島振興法に依拠
- 医療法人による無床診療所・小規模介護老人保健施設
- 医師は仙台市等の都市部から電車・自家用車でフェリーを乗り継ぎ片道3時間以上をかけて診療（平日夜間は医師不在）
- 看護師は島に居住

網地島における看取り体制の課題

- 年間看取り人数：1－2名（老健入居者を含む）を該当日の外来担当医が死亡確認
- 天候不順等でフェリー欠航の場合、死亡確認が数日間遅れることがある

理念と対策

- 地域包括ケアの理念「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができる」ようにするためには看取り体制の構築・維持が欠かせない
- 平成29年9月遠隔死亡診断ガイドラインに関する通知 → 常勤看護師が研修を受講し修了

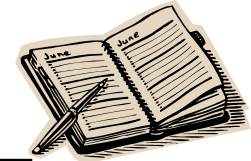
遠隔死亡診断のための要件（抜粋）と実際

- 医師による直接対面での診療の経過から早晚死亡することが予測されていること → 進行胃がんと診断された90代女性の心不全症状を伴う終末期
- 終末期の際の対応について事前の取決めがあるなど、医師と看護師の十分な連携が取れており、患者や家族の同意があること → 死亡日の2日前に情報通信技術に詳しい医師が診察した後に家族に説明
- 医師間や医療機関・介護施設間の連携に努めたとしても、医師による速やかな対面での死後診察が困難な状況にあること（正当な理由のために死亡後12時間以上を要する） → 診察翌日から天候不良によりフェリーが欠航
- ガイドラインに則して遠隔死亡診断を実行

課題

- 慢性的な人手不足に悩むへき地で勤務する看護職員が法医学に関する講義・実地研修を受講・修了することの難しさ
- 死亡後12時間以上を要する状況になり得るのは、本症例のような離島での経験例に限られる

オンライン診療を組み合わせた無医地区への巡回診療



○ 山口県山口市徳地（旧徳地町）

- ・ 約5000人（高齢化率50%を越える）
- ・ 地域唯一の常勤診療所
- ・ 無医地区が2カ所が手つかず

→ 2023年10月から医療MaaS×オンライン診療の巡回診療を実証実施

2024年2月から本格稼働

【医療MaaS×オンライン診療の利点】

- ・ 医師移動時間の短縮
- ・ 薬剤師など多職種との連携がしやすい
- ・ 公民館などオープンスペースでも診療場所の確保/プライバシーの確立が可能



モニターに映る医師の診察を受ける患者(右)



診療所でオンライン診療を行う医師



遠隔医療システム、大型モニター、ベッドなどを備えた MEDICAL MOVER の車内



看護師のサポートを受け MEDICAL MOVER に乗り込む患者

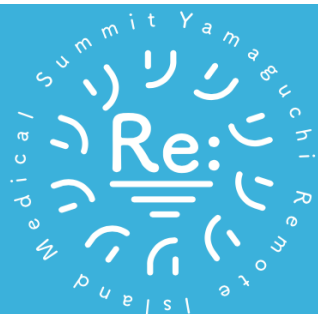
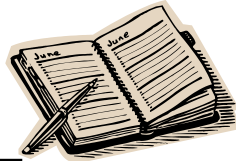


地域の公共施設を待合室として利用

トヨタ車体ホームページより

<https://toyota-shouyousya.com/topics/?p=563>

離島での看取りをテーマに「やまぐち離島医療サミット」



第1回

やまぐち 離島医療サミット @ 大島

平成29年2月4日(土)

スケジュール

Schedule

11:25	大島港到着
12:00~13:00	昼食(五月庵)
13:00~14:00	大島診療所 見学
14:00~15:00	島内ツアー
15:30	第1回やまぐち離島医療サミット開始
15:30~17:10	各離島からの報告
17:20~18:20	グループワーク
19:00~	意見交換会(場所:吉光旅館)

参加施設

Area Map



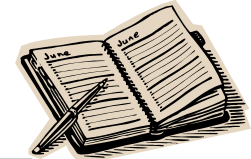
「第1回やまぐち離島医療サミット」参加者

	医師	篠原 孝宏	〈企画幹事〉
萩市国民健康保険大島診療所	看護師	長岡 清美	
	看護師	長岡 萌	
	事務	長岡 恵子	
萩市国民健康保険見島診療所	事務	長岡 綾子	
	看護師	伊藤 美幸	
	看護師	天賀 友紀	
柳井市立平郡診療所	医師	片山 寛之	
	看護師	長谷川 真希	
山口県立総合医療センターへき地医療支援センター	センター長	原田 昌範	
	部長	宮野 馨	

主催:  地方独立行政法人 山口県立病院機構
山口県立総合医療センター
 山口県立総合医療センターへき地医療支援センター
 〒747-8511 山口県防府市大崎77 TEL 0835-22-4411
 共催: 公益社団法人地域医療振興協会山口県支部



Take Home Message



- 1) ヘき地は医療資源が限られ、在宅医療には様々なハードルがある
- 2) 目指すゴールは「離島ヘき地でも持続可能な地域包括ケアの推進」
- 2) 看護師をはじめとする多職種との連携に期待
- 3) 普段からの顔の見える関係とリアルタイムの情報共有が重要
- 4) 医療DXを組み合わせる

【参考資料：オンライン診療関係】

- ・オンライン診療の適切な実施に関する指針（医政局医事課）
- ・オンライン診療その他の遠隔医療の推進に向けた基本方針（医政局総務課）
- ・オンライン診療その他の遠隔医療に関する事例集（令和5年8月版：医政局総務課）
- ・令和4年3月23日事務連絡：離島等の医師・薬剤師不在時の医薬品提供の考え方
- ・令和5年5月18日事務連絡：ヘき地等において特例的に医師が常駐しないオンライン診療のための診療所の開設について
- ・令和6年1月16日事務連絡：特例的に医師が常駐しないオンライン診療のための診療所の開設について

ご清聴ありがとうございました